

目指す児童像 『自分で考え、よりよい判断ができる子ども』

避難訓練より

1月17日（金）に地震を想定した避難訓練を実施しました。くしくも当日は阪神淡路大震災から30年を迎えた日でした。また、1月13日（月）の夜には宮崎県を震源とした緊急地震速報が流されました。

日本は地震大国であり、阪神淡路大震災以外にも、この20年余りで、能登半島地震（2024.1.1）、熊本地震（2016.4.14）、東日本大震災（2011.3.11）、新潟県中越沖地震（2007.7.16）、福岡県西方沖地震（2005.3.20）などがあり、大きな被害が出ていないものも含めると、その数は数えきれないほどです。

諫早市は地震が起きることは、他の地域に比して少ない場所ではないかと思えます。しかし、子どもたちが将来どこで生活の基盤を築くかわかりません。また、旅先で地震に遭遇してしまうことも考えられます。万が一の時に自分の命を守るため、冷静に行動するための避難訓練であったと思えます。

地震は時期や時間に関係なく発生しますし、地震が発生するとそれに加え、火災や津波の発生、ライフラインの寸断等が想定されます。

危機意識や危機管理については、ご家庭でもお話いただけると幸いです。



高校生スポーツから

年明けから高校生スポーツの全国大会が開催され、テレビ報道もされていました。大会3連覇を達成した男子バレーボール、決勝戦で両チームあわせて20人のPK戦を制した男子サッカーチーム、ノーシードから勝ち上がり19年ぶりの優勝に輝いた女子バレーボールチーム、圧倒的な強さで2連覇を飾った男子ラグビーチーム等々。

歓喜の輪を作る選手たちの姿の一方で、泣き崩れる選手の姿も映し出されていました。勝利を手にしたチームや選手は練習したこと、きつかったことが報われた思いがしたことだと思えます。では敗れたチームや選手の努力は無駄だったのでしょうか。

決してそうではないと思えます。『勝利』という結果は得られなかったのは悔しいと思いますが、それを目指して積み重ねたことは、「困難に耐える力」「目標を設定する力」「目標達成のために工夫する力」「チームを支える力」「協力や協調」「感謝する心」など将来にわたって必要とされる『人としての資質』を育んだのではないのでしょうか。

スポーツに限らず、高校生や中学生が様々な活動を通して、自己を高めている姿を機会あるごとに見ると、小学生の子どもたちが目指す近い未来の自分の姿としてほしいと思うところです。